

令和2年度関東地域飼料増産行動会議現地研修会  
～子実用トウモロコシの生産拡大に向けて～の報告

関東農政局畜産課

【概要】

水田等を活用した自給飼料の生産・利用拡大を通じ、輸入飼料に過度に依存しない畜産を推進するため、令和2年12月8日に茨城県筑西市において（有）おおしまが取り組んでいる子実用トウモロコシ生産についての現地研修会を開催した。好天にも恵まれ、茨城県内の農協関係者、都県庁の自給飼料担当者等を中心に総勢約60名の研修会となった。

【日時・場所】

1. 日時 令和2年12月8日（火） 13:30～15:00
2. 場所 子実トウモロコシ生産ほ場（茨城県筑西市柳町字新田西46付近）

【内容】

1. 情報提供

① 麦・大豆輪作体系における子実用トウモロコシの導入事例

（有）おおしま 代表取締役 大島正晃 氏  
茨城県西農林事務所畜産振興課 小笠原好教 氏

・きっかけは、大豆の連作障害回避や難防除雑草（アサガオ類）の駆除目的。

・今年は4月と6月の播種を予定していたが、長雨のため2回目が7月下旬となった。本年は、台風による倒伏がなく収穫しやすい。管理についてもっと慣れてくれば収量・品質の向上も期待できる。



② 子実用トウモロコシの試験等の取組について

（国研）農研機構 中央農研センター 阿部佳之 氏

・昨日から通常よりも水分が高い条件で作業能率等の調査等を実施している。大規模な稲麦大豆等の水田農家を中心として子実トウモロコシに関心をもたれている。他の作物と比較し、栽培の手間がかからないのが最も大きなメリット。

・子実の含水率は25%以下が推奨されているが、それ以上の水分でも収穫が可能となればメリットが大きいことから、現在データを収集中。



### ③ 飼料用稲新品種の紹介

(一社) 日本草地畜産種子協会 布野秀隆 氏

・極短穂 WCS 用品種として「つきはやか (早生)」と「つきあやか (中生)」の種子供給を来年から開始する。両品種とも関東地域に発生が多い縞葉枯病に強いので、ご活用願いたい。



## 2. 収穫実演 (クボタ社、ヤンマー社)

### ①クボタ社 (汎用コンバインを子実トウモロコシ用に改良)



### ②ヤンマー社 (子実トウモロコシ専用のスナッパーヘッドを取付け)



## 3. 全体質疑・意見交換

・(大島氏) 栽培上の問題点は適用のある農薬(殺虫剤・除草剤)が限られることやドローンによる農薬散布が現実的ではないことなど。機械について特段の要望はない。

・(松崎氏) これまで国産飼料にこだわり採卵鶏を飼養している。国産のトウモロコシがあると聞いて利用を開始した。今年からやっと希望する量が入手できそうだ。

・(バルシステム) 本年12月から限定ではあるが、やっと松崎さんの卵を組合員へ販売できるようになった。松崎さんは、すでに飼料自給率が90%を上回っているが、他の農家も取り組めるよう飼料自給率の目標を90%以上としている。安定供給が難しいため、まだパル茨城のみの取組であるが、将来的には関東全域に拡大したい。



(15:00 終了)